

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600123		
法人名	社会福祉法人 緑陽会		
事業所名	グループホーム 竹とんぼ		
所在地	苫小牧市字樽前222-11		
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600123&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成24年 3月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・豊かな自然環境に囲まれており、四季の移り変わりを感じて頂けるように入居者様のケアに取り入れています。
・入居者様が人としてどの様に生き、スタッフはどうケアするかを常に考えながら共に過ごし、一人ひとりの生活スタイルを尊重した中で、穏やかに安心、安全な暮らしが出来るようにしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体の社会福祉法人緑陽園は、40年の歩みがあり、道内初、認知症専門の特別養護老人ホームを設立するなど、30年近くに渡り、認知症高齢者の支援実績を積み重ねています。当ホームは、特別養護老人ホームと通路で繋がっており、様々な行事や研修等での協力や、併設の緑陽園の看護師や協力医療機関の24時間医療連携が確保されているなど、体制の充実を図っています。地域の人々とのふれあいを大切にしており、地域の祭典やホーム祭りでの相互交流、また、連合地区運動会などへ利用者も一緒に参加をし、住民の方々と協働しながら盛り上げています。理念の追求に向けた職員教育にも力を注ぎ、定着率と共に職員の専門性やクオリティも高い状況にあります。施設長と職員の関係は良好であり、相互に意思疎通を図り、利用者本位の統一したケアに尽力しています。また、家族との絆を大切にして、利用者を共に支える温かい関係性も窺えます。職員は、ほっと安らげるような雰囲気作りや、ゆったり、のんびりと過ごして頂けるよう支援に努めています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある			○	3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示し、常に意識して実践につなげている。 又、毎月のスタッフ会議の中で全員で確認し共有している。	法人理念を具体化した5つのケア理念の4項目目に「地域と共にあること、地域の一員として暮らすことを目指す」を掲げ、地域密着型としての理念を確立しています。理念に対する意識・行動においては、ホーム全体のものとなっており、常に立ち返る根本的な考え方となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加し、交流を持っている。 竹とんぼの行事にも地域の方々を招待し交流に努めている。	運営法人及びホームは、樽前地区の地域住民等と協働した地域活動に取り組んでいます。樽前連合運動会では、利用者が子どもたちに声援を送ったり、種目の競技や踊りにも参加しています。また、ホームの夏祭りや敬老会等において、地域の方々を招くなど、相互交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長、主任スタッフが、認知症サポーター養成講座の講師として講義を行い、認知症について、ケアのあり方についてお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、事業所の現状や災害対策、行事案内等報告すると共に、常に意見を求め、サービスの向上に努めている。	会議には、経営層以外にケアスタッフも一名出席する事としています。防災対策の議案では、メンバーから一時避難場所について具体的な提案があり、すぐに取り上げられるなど、スムーズに運営されています。議事録は当該関係資料も添付し、全家族に直接手渡ししています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で意見交換している。 又、地域包括支援センターとの担当者とは、日常的に課題等について相談している。	ホームが自ら有する機能や福祉の専門性を活かしながら、市の担当者等と連携を深め、地域福祉の推進に取り組み、一般又は法人向けの認知症サポーター養成講座を開催しています。今後は、市ボランティアネットワークとの関係を構築していきたい意向を示しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で学び、スタッフ会議の中でも内容を確認している。全スタッフが共有した認識のもとケアの実践を行っている。 玄関は防犯上、夜間のみ施錠している。	身体拘束廃止に向けてのマニュアルを整備しています。職員は法人内外の研修に参加するほか、ホーム独自に勉強会を持ち学びを深めています。利用者一人ひとりが抱える根本的な不安等の要因を探り、重度化となっても尊厳を重視した対応をしています。やむを得ず身体拘束を行う場合（医療的見地等で）には、家族の同意を得ることとしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び、スタッフ会議で内容を確認している。 入居者様の心身の変化に常時意識を持ち防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種の研修で学んだり、運営推進会議で地域包括支援センターから知識を得る等して活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間をかけ、ご家族様が理解していただけるように説明を行っている。 解約時と同様、安心して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ポスターを掲示し、苦情ボックスを設置している。 対策委員会もいつでも対応できる様設けている。 又、事業所の運営規定、重要事項説明書に外部第三者委員の氏名を明記している。 ご家族訪問時や遠方の家族には電話で近況報告し意見を聞き反映させている。	家族から、利用者の現在の認知症状の段階や、将来像（心身の状態）等について、忌憚のない意見が寄せられています。家族がこれまで介護に関わり苦勞してきた事や、関わり育んできた事柄なども、職員へ気軽に伝えて頂くなど、話しやすい関係性が窺えます。その都度、家族の心情等に配慮し、実直に対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議の中で、スタッフの意見や提案を聞き反映している。	施設長は、職員に対して「自分の色を出してほしい。何かないですか。」と伝え、職員個々の意見を取り入れ、ホーム運営に反映しています。職員からの提案は多く出されており、リビングのレイアウトが職員の提案で工夫されるなど、反映されています。利用者の乗り心地に配慮した車両や、見やすい画面のテレビの導入も要望としてあがり、法人本部で検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定に従っている。 勤務実績表にて職員の状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に積極的に参加を奨励している。 全職員が偏りなく行けるように配慮している。 又、スタッフ会議で報告し検討を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内や周辺地域の同業者の見学を受け入れたり、研修等で親交を深めている。 市内のグループホーム連絡交流会に参加し連絡を取り入れやすい様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所までの段階で、できる限り情報を収集し、入所後も、ご本人様から伺う等し安心できる様に信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様から十分お話を伺い、入居後も継続して支援できる様に関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合い、必要なケア環境を検討する様に努めている。 又、入所申し込み時、他施設のご案内もしており、その方にあったケアについて説明し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、入居者様の思いを共感し受け止め、やりがい、生きがいをもっていただける様に必要な援助を行い、信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と同じ方向性の中で、ケアしていける様に面会時や電話にて近況報告を行い、意見交換し共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会を自由にして頂き、これまでの大切な関係が途切れないよう支援に努めている。	職員と一緒に以前住んでいた自宅を見に外出した際には、近所の方々と、ゆっくりとふれ合う場面をサポートしたり、昔の勤務先の馴染みの方から、誕生日にお祝いが届いたりしています。また、職員と一緒にお寺参りに行ったり、市博物館の学芸員の協力を得て、蓄音機によるレコード鑑賞をするなど、利用者の思いが継続できるような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	過ごされる場所や時間に留意し、皆様が快適に過ごせるように、入居者様同士の関係維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築いてきた関係を大切ににして、相談等があれば応えていけるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートやご家族様からの情報、入居者様との会話の中から得た情報等で、その人らしく過ごせる様思いや希望を受け止め、必要な援助を提供できるよう努めている。	職員は、その時々による利用者の表情を察して、個々の思いを受けとめています。利用者の言葉にしやすい思いや、心情等に配慮し、気持ちを楽にして頂くためのメンタルケアを行っています。また、情報については職員全体で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や好み等をライフヒストリー表に記載して頂き、情報収集し把握に努めて、サービス提供に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、顔色や表情、精神状態等の変化に気をつけ把握に努めている。 又、スタッフ会議にてアセスメントを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制にしているが、入居者様、ご家族様から希望を聞き反映させていくと共に、毎月のモニタリングを行いスタッフ会議で意見交換を行い、医師の助言も得た中で検討して、その方に必要な介護計画を作成している。状態に変化があった場合には現状に合わせた計画となるよう変更を行っている。	アセスメントは利用者のライフヒストリーも活かし、利用者の望む生活を支援するケア計画を作成しています。日々蓄積されてきた様々な情報等を、全体のケア会議の中で検討し、利用者の担当職員が計画のたたき台を立てるなど、全職員が関わった計画となっています。現在、センター方式の活用を進めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のアセスメントシートの記録、ケアプラン実施状況記録やスタッフ連絡ノートを活用し、情報の共有、共感を行い、それをもとにケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の意見や要望を聞き、その方にとって最適な支援、サービス提供ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の教育機関との関わりの中で、互いにいつでも連絡が取り合える関係づくりに努めている。 又、豊かな自然環境をケアに取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の希望に応じて相談しながら、かかりつけ医を決めている。 協力医療機関の定期的受診、往診、歯科の訪問診療等を行っている。看護師との医療連携体制も整っており、適切な医療支援をしている。	利用開始前のかかりつけ医への受診が可能であり、その場合もホームが通院支援を行っています。往診は協力医療機関（内科・歯科）の他、皮膚科の医師とも連携し、体制を整えています。受診記録は個人別に時系列で纏めたものと、受診前後の内容も盛り込んだ詳細な記録シートを作成し、毎回、結果を家族へ知らせています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護師と医療連携体制が整っており、日常的に入居者様の健康管理を行い協力医療機関においても、すぐに相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、ソーシャルワーカー等と、情報交換を行い、状態の把握とケアの方法等を話し合い、安心できるようにしている。 又、早期退院できるように配慮を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を整備している。 重度化した方へのケアについて事業所として、できること、できないことをご家族様、医師、看護師、スタッフと話し合い方針を共有している。	居室にて医療者による点滴治療がなされるなど、医療連携体制が十分に整っており、利用者の負担軽減ともなっています。重度化及び看取りに関する指針を契約時に説明し、同意書を交わしています。また、終末期の看取りについて、事前確認書を整備し、家族の方針や意向を確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命講座を受けており、マニュアルも作成している。 スタッフの連携により緊急に備えるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や通報訓練、消火器訓練を実施しており、マニュアル、連絡網も整備している。 駐車場に避難場所設置されている。 又、消防署、地域住民、併設施設との連携体制が整っている。	年2回消防署の指導を得て、併設の特別養護老人ホームと合同の昼夜・火災想定避難訓練を実施しています。今年度の訓練には、地域住民の方々の参加は得られませんでした。協力関係を築いています。地震発生・津波警報発令時対応マニュアル及び災害防止マニュアルが整備されるなど、防災計画が策定されています。災害備蓄品の確保や職員の救命講習も取り組みを進めています。	策定された防災計画がホーム全体のものとなるように、内容の周知徹底や、様々な状況を見据えた避難誘導が、的確に実施できるための職員教育を行っていきたい旨の考えなので、その取り組みの実現に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のある生活を援助している。 日々、一人ひとりのプライバシーに配慮し傷つけない声掛けや、記録のとり方にも留意し対応している。	職員は、利用者の尊厳ある生活を保障し、権利を損なわないよう、支援に取り組んでいる様子が窺えます。敬意や礼儀を重んじ、施設長と職員が話し合いを深めています。個人記録類は、保管場所を決めて管理を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活が送れるよう、好みや言動、意向を把握して、自己決定して頂ける様に、気持ちを尊重した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースや気持ちに合わせたケアを心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や服装など、その方の好みや習慣を大切に尊重し、維持できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の栄養士が献立を作成している。その中でも、それぞれの好みを尊重し、美味しく食事できる様配慮している。職員も一緒に食事を摂り会話しながら空間を共有している。又、食器拭きのお手伝い等負担にならない範囲で行って頂いている	味付けや調理方法、盛り付けをその都度工夫したり、食卓の雰囲気作りにも配慮しています。食事介助の際は利用者のペースを守り、ゆったりと支援している様子が窺えます。季節行事に応じた食事や、誕生日をケーキで祝ったり、ホットケーキ、おはぎ作りを利用者と一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは併設施設の管理栄養士が作成しバランスの摂れた食事が提供できている。 アセスメントシートに摂取量を記載し把握している。 又、入居者様の嗜好や形状に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力と必要に応じて支援している。 又、歯科往診により、口腔内のチェックやアドバイスを頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を記録にて把握し、トイレ誘導や声掛け等行っている。習慣を活かした自立支援を行っている。 使用するパット等随時スタッフ会議にて検討している。	排泄記録をもとに利用者の排泄状況等を把握し、適宜のアセスメントで、望ましい支援を検討しています。個々の排泄リズムに応じた声かけや表情などで、排泄等の様子を見極め、失禁を防いでいます。リハビリパンツ類が不要となる場合や、パットを併用する場合でも根拠を明確にしています。異性介助の場合などは、便座に腰かけた際に、腰のあたりに布を使用し、利用者の羞恥心に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握と排便状況を確認している。 食物繊維を取り入れたり工夫している。 又、散歩や軽い運動を取り入れ予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は時間や曜日を決めず、入居者様の希望や体調、状態に合わせて実施している。 夜間も希望により入浴支援している。	利用者が入浴したい時間や、希望に沿って対応しています。見たいテレビがある時は終わってからにしたり、夏場の毎日の入浴や、夕食後に入る習慣等も継続的に支援しています。入浴を拒むケースはなく、安心して頂けるような声かけに努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況、体調、生活習慣に応じて、休息していただける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の内服薬情報提供表を作成しており、用法、用量、副作用の把握に努めている。 又、体調に変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割ややりがいを大切にすると共に、これまでの生活習慣を把握しながら支援している。ドライブ、買い物、洗濯たみ、食器拭き等、無理のない様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に留意し、希望を尊重して、散歩やドライブ、買い物、地域行事、併設施設の行事等、希望や季節感を取り入れた外出支援を実施している。	鮭の溯上見学や樽前神社への初詣、柏原神社のかかし祭りへの参加など、季節毎の外出を楽しんでいます。紅葉狩りに出かけた際は、参加されない利用者へ、紅葉の枝をお土産に持ち帰り喜ばれています。買い物は個別や少人数で、個々の希望により、併設施設や病院の売店、ショッピングセンターに出かけています。花々が咲き誇り小動物がいるメモリアルパークを散歩しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を理解し、希望時には、気軽に使用できるよう見守りや声掛け等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話をひいている方もおり、いつでもやりとりができるよう支援している。 又、希望時や贈り物、手紙が届いた際、電話していただけるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、季節感を出している。 壁には入居者様の作品や写真を掲示している。 又、ソファの配置や温度、湿度、音、明るさに配慮した空間づくりに工夫している。	玄関は格子状のガラスを用いた引き戸で、出入りし易い造りです。30畳もある広いリビングには、畳敷きの小上がりスペースや、外庭に続くテラス窓が設えられ開放感があり、9名の利用者が思い思いのパーソナルスペースを確保され、ゆったりと寛げる空間となっています。全体的に施設的な雰囲気を感じさせない温もりある空間で、利用者の作品類が豊富に掲示されています。屋外の木々などが眺められる広い浴室は、清掃が行き届き、脱衣所の温度にも配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるスペースや皆様に楽しく過ごせるスペースもあり、居心地の良さの中にもプライバシーに配慮した空間づくりが出来るよう、家具の位置に留意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に、クローゼットと洗面台が備え付けている。 入居時に使い慣れた家具等お持ちいただける様お願いし、家庭環境に近い部屋づくりの工夫をしている。	居室入口には、自室と分かるようにさりげない装飾も施され、備え付けの洗面台は、利用者が使用し易い環境となるように整えられています。容量のあるクローゼットには、洋服や日用品類を利便性良く収納し、品物が一目で確認できるよう、ラベル表示もしています。利用者の愛着ある物や、家族のプレゼント、また、思い出の品々が飾られていたり、趣味や特技の作品等の掲示がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダー、時計、手すりの設置や、トイレの場所、ご自分の部屋がわかるように、表札や顔写真を掲示している。 又、安全に配慮して家具の位置に留意している。		